

令和 3 年 8 月 24 日現在

機関番号：27301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12172

研究課題名(和文) 配置転換を経験した看護師のアンラーニングを促進する支援プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of support programs to promote unlearning of nurses who transferred from other wards.

研究代表者

山口 多恵 (YAMAGUCHI, Tae)

長崎県立大学・看護栄養学部・准教授

研究者番号：00597776

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、配置転換を経験した中堅看護師のアンラーニングを促進する支援プログラムの基盤となる支援内容を明らかにした。配置転換を経験した中堅看護師のアンラーニングのプロセスを構成する6つの要素を明らかにしたのちに時間軸に沿ったアンラーニングの仮説モデルを作成し、仮説モデルの適合度を検証した。さらに、アンラーニングを促進する要因を明らかにした結果、患者の回復過程を支える【多職種協働による看護師の役割意識の明確化】【経験の省察によるリハ看護の価値への気づき】等を基盤にすることが明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における超高齢社会の地域包括ケアシステムを担う高齢者長期ケア施設に従事する看護師にとって、本研究で開発するアンラーニングを促進する支援プログラムは、回復期リハビリテーション病棟のみならず、療養病床や介護老人保健施設等に配置転換した看護師にも普遍性を持つことが期待される。今後ますます高齢社会が深化する日本の地域包括ケア時代を担う看護師にとって実用性および汎用性の高い支援ツールとなるという点で社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the support content that is the basis of a support program that promotes the unlearning of senior clinical nurses who transferred from other wards. First, we clarified the six elements that make up the unlearning process of nurses who transferred from other wards. Next, we constructed a hypothetical model of the unlearning process along the time axis, and verified the goodness of fit of the hypothetical model. In addition, we clarified the factors that facilitate the unlearning process. Based on the results, it was determined that it is possible to build on seven foundations such as: rewarding to support the patient's recovery process, clarification of the role awareness of nurses through multidisciplinary collaboration, and awareness of the value of rehabilitation nursing through reflection of experience.

研究分野：老年看護学

キーワード：配置転換 看護師 アンラーニング 支援プログラム

### 1. 研究開始当初の背景

超高齢社会の進展に伴い、わが国のケアシステムの構造やありようは日々変化しており、厚労省は 2025 年を目途に地域包括ケアシステムの構築を推進している。かつての病院完結型の医療から在宅を基盤とする医療システムへと大きくシフトしている。このような背景において、在宅復帰支援を目的とした回復期リハビリテーション病棟は、大変重要な位置づけとして注目されている。しかし、看護領域の違いによる看護師のアイデンティティの差異の先行研究によると、リハビリテーション病院の看護師は一般病院の看護師に比べて、「患者に必要とされる存在の認知」が有意に低いことが報告されている（山元，2003）。また、他の病棟から回復期リハビリテーション病棟へ配置転換した看護師は、急性期看護の役割との違いに戸惑いやゆらぎを感じている（秋山，2012）ことが報告されている。

申請者は、現在までに回復期リハビリテーション病棟に入院している患者の在宅復帰支援に関する研究（山口ら，2007）や脳卒中後の鬱症状を呈する患者のチームによる在宅復帰支援に関する研究（松尾ら，2003；山口ら，2004）、回復期リハビリテーション病棟に入院している患者の他職種による転倒リスク評価に関する研究（松尾ら，2005；山口ら，2009；2013）を行ってきた。これらの研究を通して、対象の活動の拡大と自立・自律を目指す回復期の看護師には、医学モデルに基づく看護と生活モデルに基づく看護を対象の状況に合わせて柔軟に用いる力量形成、すなわち環境や状況に合わせた知識・技術・価値観を絶えず転換させる力量が必要であることに気づき本研究の着想に至った。配置転換を経験する看護師の人材育成に貢献する研究において、アンラーニングは重要な概念として位置づけられる。しかし、研究開始当初は、看護師のアンラーニングのプロセスについては未だ解明されておらず知見の創出が喫緊の課題であった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、一般病棟から回復期リハビリテーション病棟に配置転換した看護師のアンラーニングのプロセスを解明し、アンラーニングを促進するための支援プログラムを開発することである。

### 3. 研究の方法

1) 1 年目：一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ配置転換した経験の語りを収集し、アンラーニングの構成要素の解明ならびにプロセスモデルの作成（平成 29 年度）

一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ配置転換した際に、今までの看護の方法や価値観の違いに戸惑いを感じて状況に合わせて自分の考え方や価値観を変えたこと、つまりアンラーニングしたことについて看護師の語りを収集した。中堅看護師がアンラーニングの体験について語っている部分を前後の文脈の意味を失わない程度の長さで区切り取り出し、先行要件、属性、帰結それぞれ時間軸と内容を考慮し性質の類似性・相違性に着目しながら内容の関連性や順序性を検討した。アンラーニングの要素をもとにプロセスモデルを作成した。インタビューの実施については、長崎県立大学一般研究倫理委員会の承認を得た。

2) 2 年目：アンラーニングに関する質問紙の作成と項目の洗練（平成 30 年度）

2 年目は、仮説モデルの検証に用いる量的データを収集するための質問紙を作成しプレテストを実施した。質問紙は、1 年目で抽出した中堅看護師の配置転換に伴うアンラーニ

ングの体験を問う内容で構成した。

3) 3年目：2年目に作成した質問紙を用いた全国調査データを基にモデルの検証を行い，アンラーニングに影響を及ぼす要素の確定（平成31年度）

3年目は，回収データを基に共分散構造分析によりアンラーニングのプロセスモデルの検証を行った．一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会のホームページに公開されている1,087施設の施設長または看護部長へ研究の概要，倫理的配慮を記載した研究計画書，施設長または看護部長宛研究協力依頼文，質問紙を郵送した．

施設内で研究協力の可否を検討した上で同意が得られた場合には，対象となる中堅看護師を最大5名選出し該当者へ質問紙の配布を依頼した．対象の選出条件は，回復期リハビリテーション病棟に勤務している看護師のうち，一般病棟の実務経験が5年以上ある中堅看護師とし，回復期リハビリテーション病棟の経験年数が長い順5名の選定を依頼した．回答者の属性は記述統計により算出した．プロセスの仮説モデルの適合度の検証は共分散構造分析を用いた．

本調査は，千葉大学大学院看護学研究科の倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号29-18）．

4) 4年目：アンラーニングを促進する支援プログラムの構成要素の明確化（平成32年度）

4年目は，3年目のモデルの検証結果で明らかになったアンラーニングのプロセスを促進する内容に注目した．看護師のアンラーニングを促進する助けとなった事柄について自由記述によりデータを得た．アンラーニングを促進した事柄について明らかにし，支援の方向性を検討した．

#### 4．研究成果

##### 1) 1年目

###### (1) インタビュー協力者の属性

研究依頼文を送付した75施設のうち14施設から同意書の返信があり（回収率18.7%）．そのうち日程の調整が可能となりインタビューが実施できた施設は5施設（35.7%）であった．5施設の看護部長より中堅看護師23名の紹介を受けた．中堅看護師数の性別は，女性が21名（91.3%），男性が2名（8.7%）であった．年齢は，20歳代が2名（8.7%），30歳代が7名（30.4%），40歳代が13名（56.5%），50歳代が1名（4.3%）であった．一般病棟での勤務経験は，5～10年未満が11名（47.8%），10～15年未満が7名（30.4%），15～20年未満が4名（17.4%），20～25年未満が1名（4.3%）であった．回復期リハビリテーション病棟での勤務経験は，5年未満が10名（43.5%），5～10年未満が10名（43.5%），10～15年未満が2名（8.7%），15～20年未満が1名（4.3%）であった．

###### (2) アンラーニングの構成要素構成要素およびアンラーニングの仮説モデル

23名の看護師へのインタビューデータよりアンラーニングの構成要素を形成し，時間軸に沿ったプロセスの仮説モデルを作成した．アンラーニングの構成要素は，6カテゴリ，22サブカテゴリで形成した．

2) 2年目：アンラーニングに関する質問紙の作成と項目の洗練

###### (1) アンラーニングの体験を問う内容

仮説モデルの6カテゴリを潜在変数，サブカテゴリ22項目を観測変数とし，22項目の回答の選択肢コードを「1：そう思った」「2：ややそう思った」「3：どちらとも言えない」「4：あまりそう思わなかった」「5：そう思わなかった」とした．

(2) 一般病棟と回復期リハビリテーション病棟違いを受け入れるために助けとなったことに関する自由記述

一般病棟と回復期リハビリテーション病棟の違いを受け入れるために助けとなったことについて自由記載の欄を設けた．

また，プレテストを実施し質問項目の内容妥当性や回答への所要時間，回答する際に起こりうる問題，回答のしやすさ等，文章の表現やレイアウト，設問順番に関する意見を収集した．プレテストによる意見を基に質問紙を修正し仮説モデルを検証するための質問紙を作成した．

### 3) 3年目：仮説モデルの検証

#### (1) 分析対象者の選定

1,087施設の5,435名の看護師に配布したうち1,601名分を回収した(回収率29.5%)．回収した質問紙のうち，対象の条件を満たさない一般病棟経験5年未満が79名(4.9%)，設問に欠損値があったのは175名(10.9%)，質問紙の同意チェック欄にチェックが無い者が248名(15.5%)であった．回収した質問紙のうち，対象の条件を満たさない一般病棟経験5年未満の者は除外した．同意チェック欄や設問に欠損がある者を含めたデータを集団(A)とし，欠損値のない完全データを集団(B)として2つの集団の差の検定を量的データは $t$ 検定，カテゴリーデータは $\chi^2$ 検定を実施した．結果，全ての設問において有意確率 $p > 0.05$ となり集団(A)と集団(B)に差があるとはいえないことを確認し，分析対象は欠損値のない完全データ集団(B)( $n=1,099$ )とした．

#### (2) 分析対象者の属性の記述統計

分析の対象となった中堅看護師1,099名のうち1,047名(95.3%)は女性であり男性が52名(4.7%)であった．平均年齢は $44.11 \pm 8.02$ 歳であり40歳代以上が754名(68.6%)を占めていた．看護師経験年数は $20.54 \pm 8.03$ 年，一般病棟経験の平均年数 $12.96 \pm 7.06$ 年と10年以上ある者が862名(61.3%)を占めていた．一方，回復期リハビリテーション病棟経験年数は $4.55 \pm 3.49$ 年であり，回復期リハビリテーション病棟で10年以上の経験がある者は108名(9.8%)であった．

回復期リハビリテーション病棟への配置転換は，希望で配置転換したものが424名(38.6%)，非希望は675名(61.4%)という結果であった．

#### (3) アンラーニングのプロセスの仮説モデルの適合度指標

アンラーニングのプロセスの仮説モデルを検証するためQ2のデータを用いて共分散構造分析を行った．モデルのデータへの当てはまりを示す適合度指標は， $\chi^2(201)=1841.92$ ， $p < 0.000$ ，GFI=0.87，AGFI=0.83，RMSEA=0.09となり基準を満たさなかった．

#### (4) 修正モデルの適合度指標(図1)

6因子の仮説モデルから5因子のモデルへ修正した．モデルのデータへの当てはまりを示す適合度指標は，GFI=0.95，AGFI=0.93，RMSEA=0.06であった．

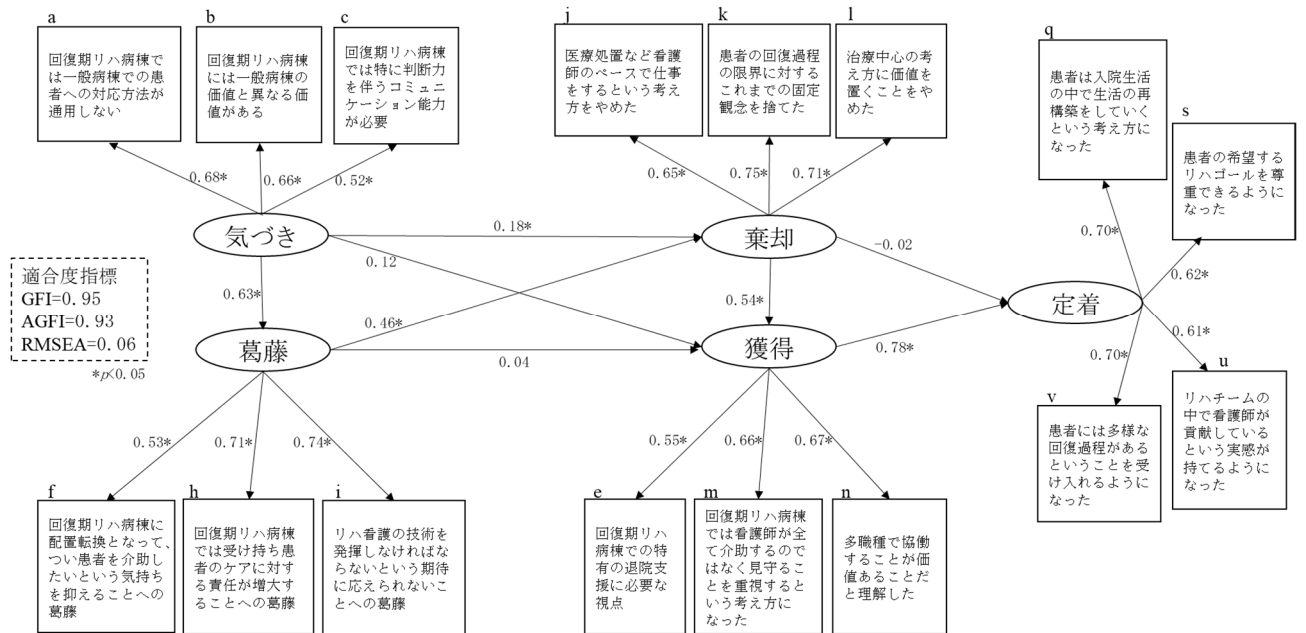


図 1. 中堅看護師のアンラーニングのプロセスの修正モデル 共分散構造分析結果 (誤差変数 e は省略した)

#### 4) 4年目：アンラーニングを促進する支援プログラムの構成要素の明確化

一般病棟から回復期リハ病棟へ配置転換した中堅看護師がリハ看護を受けいれる要因について 703 名からの記述データが得られた。全記述内容から 1,001 コードが得られ、目的に沿わない 177 コードを除外した。824 コードを分析し、25 サブカテゴリに集約され、さらに 7 カテゴリを形成した。一般病棟から回復期リハ病棟へ配置転換した中堅看護師がリハ看護を受けいれる要因は、【患者の回復過程を支えるやりがい】【多職種協働による看護師の役割意識の明確化】【退院支援を通じた見守り待つ技術の獲得】【他者からの指導やロールモデル】【リハ看護に関する学習】【経験の省察によるリハ看護の価値への気づき】【治療優先から生活機能優先への視点の転換】であることが明らかになった。これら 7 カテゴリの内容を配置転換した看護師が経験できるような職場環境や人材を整備することが支援の構成要素として含まれることの示唆を得た。

#### 5) 今後の展望

本研究によりアンラーニングのプロセスの構成要素および中堅看護師がリハ看護を受けいれる要因が明らかになった。中堅看護師がアンラーニングのプロセスを円滑にたどることを支援するための教育内容の示唆が得られた。今後は、教育内容の明確化および教育プログラムの実践適用可能性について検証することが課題である。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Tae YAMAGUCHI, Ikuko SAKAI	4. 巻 75
2. 論文標題 The unlearning process of senior clinical nurses in rehabilitation wards	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Advanced Nursing	6. 最初と最後の頁 2659-2672
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/jan.14050	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山口多恵、酒井郁子、黒河内仙奈	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 "アンラーニング" の概念分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉看護学会誌	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山口多恵、高比良祥子、酒井郁子	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 一般病棟から回復期リハビリテーション病棟へ配置転換した中堅看護師がリハビリテーション看護を受けられる要因と属性との関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本リハビリテーション看護学会誌	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 山口多恵
2. 発表標題 一般病棟から回復期リハ病棟へ配置転換した中堅看護師が看護の専門性の違いを受け容れるための促進要因
3. 学会等名 第45回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tae YAMAGUCHI, Ikuko SAKAI
2. 発表標題 Educational support by nurse managers for senior clinical nurses who transferred from acute to rehabilitation wards
3. 学会等名 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tae YAMAGUCHI, Ikuko SAKAI
2. 発表標題 Relationship between the factors of unlearning and interprofessional collaborative competency of senior clinical nurses
3. 学会等名 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口多恵
2. 発表標題 急性期病棟から回復期リハ病棟へ異動した中堅看護師のアンラーニングのプロセスの仮説モデルの作成
3. 学会等名 第44回日本看護研究学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山口多恵、酒井郁子、黒河内仙奈
2. 発表標題 一般病棟から回復期リハ病棟へ異動した中堅看護師のアンラーニングのプロセスの仮説モデルの検証
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	酒井 郁子  (SAKAI Ikuko)	千葉大学・教授	
研究協力者	黒河内 仙奈  (KUROKOUCHI Kana)	神奈川県立保健福祉大学・講師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------